



## ●全国大会 [名古屋] 22 プログラム

全国大会のプログラムを構成しました。研究・作品発表の66件は、色弁別、測色、画像処理、色覚多様性、照明、顔・表情、嗜好、教育、文化、景観・建築、ファッション、デザインなど、多彩な内容です。

招待講演・特別学術講演も含め、2日間の充実したコンテンツをご確認ください。

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/program20220430.pdf>

◆会期：2022/6/25（土）・26（日）

◆会場：〈現地参加〉椋山女学園大学 星が丘キャンパス。

〈オンライン参加〉Zoom 利用。

◆参加申込：

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/#sankatouroku>

前納参加×切日 5/25（水）

◆大会情報：

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/>

なお、日本色彩学会では、スポンサー様による、年間/スポット広告を募集しています。6月末までの申込みで、大会関係サイトにも広告を掲載させていただきます。

<https://color-science.jp/links/sponsors/>

(全国大会実行委員会・広報)

## 源氏物語の色-34「若菜上」-その1

「若菜」は源氏物語において最も長文で、現在は上下に分け2つの帖として扱われることが多い。

帖の名は、養女、玉鬘（たまかづら）が光源氏の四十歳の長寿を祝う「四十賀」の年の正月に若菜を献じた場面にちなんだもの。

平均寿命が四十歳代と考えられる平安時代、四十歳の異称は「初老」で、ここから老年期に入るとみなされた。

同じ年の二月中旬、女三の宮への文を白の料紙にしたため、白梅の枝に付けて使いに預けた場面で光源氏の装束の色は白。そして、庭に残る雪、舞い散る雪、真白な梅花、と背景にも白が描かれている。梅の枝を手に、御簾を押し上げ庭を眺めるその姿は、いかにも若々しくなまめかしく美しく、感じられたとある。源氏物語には光源氏の衣装の色の記述が何度も出てくるが、この後は無い。

この場面での光源氏は、すでに準太上天皇という高い身分であり、さらに内親王女三の宮の夫という立場。

まさに栄華を極めた時期、その栄光の陰で、心は老いの嘆きに満ちいく。景色と衣装の白が老いても未だに美しい姿をより際立たせていると思う。

(平山和香子)

## ●図書紹介 「虫や鳥が見ている世界」

—紫外線写真が明かす生存戦略 浅間 茂著  
中公新書 2019年 1000円+税

多くの鳥や昆虫が見ているのに、我々には見えない世界を、360nm前後の紫外線カメラを通して著者が紹介している。

鳥や昆虫は紫外線反射の違いで雌雄を見分け求愛活動に役立てているものが多い。たとえば、モンシロチョウの雄の翅は紫外線を吸収し、雌は反射するのでお互いに分かる。

トカゲは敵に襲われたときに自ら尾を切って逃げるということが知られている。これは紫外線反射が強くて動き回る自切した尾に、敵の目を向けさせて本体が逃げる作戦だ。

シチメンチョウは頭から首にかけて色が劇的に七変化することからついた名前だ。興奮すると赤くなる人間とは逆に、平静なときは赤く、興奮すると青、白に変化する。これは血管内のコラーゲン構造の変化による構造色で、赤は紫外線を吸収し、青や白は反射する。

菜の花は真っ黄色だが、紫外線カメラを通すと全然違って見える。花びらは紫外線を強く反射し、おしべは吸収している。モンシロチョウは、花びらの紫外線反射で花に近づき、紫外線の吸収で蜜のありかを知るといふ。動植物の生存戦略の一端を知る一冊。(垣田)